

## お詫びと訂正

これまでに発行いたしました市場小学校第二方面校開校準備部会ニュース第1号～第3号において、問い合わせ先である事務局のEメールアドレスに誤りがありました。

(正) ky-ichibadai2@city.yokohama.jp

(誤) ichibadai2@city.yokohama.jp

教育委員会のホームページに掲載しております部会ニュースについては、6月27日に差し替えを行いました。地域及び市場小学校・市場中学校保護者の皆様には大変なご迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

※なお、教育委員会ホームページの問い合わせ先として掲載しているEメールアドレスに誤りはなく、このアドレスにより、これまで事務局に届いたご意見等につきましては、全てお返事させていただいております。

第4回開校準備部会においては、平成28年5月26日に行われました第3回開校準備部会での議論を踏まえ、市場小学校第二方面校を、市場小学校の分校とする「分校案」を採用するかどうかについて審議しました。

## ◆ 第4回開校準備部会での決定事項など ◆

- 市場小学校第二方面校については、市場小学校の分校とする案を開校準備部会の意見とする。
- 事務局から追加で提示された、「関係地域の通学区域の考え方」と「分校名案の考え方」について、各所属団体に持ち帰り、意見を伺うこととする。

### 1 市場小学校を分校とする場合の特別の事情

学校教育法施行規則第42条では、「小学校の分校の学級数は、特別の事情のある場合を除き、5学級以下」とされています。市場小学校を分校とする場合、横浜市教育委員会としては、

(1) 10年間の暫定的な学校であること。

(2) 市場地区は、市場小学校と密接に連携しながら、地域が一体となって子どもの育成を担うことにより地域力の促進も図ってきた長い歴史があること。

により、市場小学校については特別の事情のある場合に該当すると判断します。

### 2 通学区域案と分校案について

各所属団体の意見をもとに、通学区域案と分校案について議論した結果、部会長を除く出席した部会委員22人により、無記名投票による多数決を実施することとなりました。

#### 【投票結果（投票総数：22票）】

分校案（1校体制）	18票
通学区域案（2校体制）	3票
白票	1票

「分校案」が過半数を超えたので、開校準備部会運営要領第5条第3項の規定により、市場小学校第二方面校については、市場小学校の分校とする案を開校準備部会の意見とすることが決まりました。

#### 【部会委員からの主な意見など】

（凡例 ☆：各委員からの発言）

☆：アンケートの結果、半数が考え中で、あとの3割が分校体制、2割が2校体制に賛成という意見だった。2校体制の意見は、今までどおり通えるようなので、分校になると教員数が少なくなるが大丈夫か、市場小が実験校になる必要はない、近いところに通いたい、全学年が揃わない小学校はおかしい、という意見だった。分校体制の意見は、充実した学校生活を送れるように、母校が無くなることにはならないように、この市場地区であれば、縦割りの良さがなくなるという懸念に対しては、町内の行事などでフォローできるのではないか、自分のことを思い出してみると、他学年より同学年との思い出の方が多いので分校の方がいいといった意見があった。

☆：所属団体でアンケートをとった。回収率は40%で、明確に記されていたもののうち、1校体制が60%、2校体制が40%だった。その他、決定に従うと明記したもの、ご意見・要望だけ、全く新たな提案、白紙や特にありませんといったものがあつた。1校体制の分校に賛成の方は、中学校との連携ができるならよい、友達と別れたくない、転校したくない、地域の不公平感をなくすために分校がよい、低学年が第二方面校に通うには通学路が危険、卒業した小学校の名前は残るべき、全学年での行事は必要、全学年が揃わないと困るといったことはない、5・6年生に教科別の先生が付くのはよい、市場小の伝統を守りたい、縦割りの交流は定期的に行って欲しい、先生方への配慮は必要、元宮の分離に反対、廃校になる学校に通わせたくない、保育園等で一緒に市場小に通おうと話している、個別支援学級への配慮、教育水準は落とさないで欲しい、という意見だった。一方、2校体制に賛成の方は、全学年が揃っていてこそ、きょうだいで同じ校舎に通わせたい、第二方面校への通学は負担、1校体制の場合、教員等の負担が大きい、全体行事への配慮が必要、引取り訓練等で違う校舎へ行かないといけない親の負担、PTAで登校しても我が子が見られないかもしれない、抽選制等にして欲しい、学年の人数が多く子どもが不安がるのでは、新設のマンションを第二方面校、事例の少ない分校制にチャレンジするにはリスクが高い、といった意見があつた。

☆：市場小がいろんな形で工夫をしていく中で、平安小も同じようなレベルや水準でやっていただかないと、中学にあがってから色々なギャップが出るのではというところを心配しているという話はあつた。

☆：私の所属する団体では、第二方面校の通学路はどうなるのかといった、生活レベルでの意見が圧倒的に多かつた。安全対策の話があつて、子どもと保護者が安心・安全に通学させることのできる条件が提示されれば、そのとき初めて分校というのがどうなのか議論されるのではないか。全学年が揃って縦割りの教育を行うことが一番大事などころだが、そういった教育的な見地での意見はほとんどなかつた。分校案にするか2校案にするか、地域でそういうことを議論するのは馴染まないのかなと感じた。

☆：分校案の方が無難かと思う。

☆：所属団体では、分校案でいこうということになった。その先は先生方や教育委員会という教育のプロにお任せするしかない。その中で問題があれば地域も考えていく。

☆：町が分かれず、小さい子があまり遠いところに行くことなく、というところで最大公約数を考えていかないとけない。所属団体では、色々な意見は出たが、分校しかないという話になった。

☆：10年間でなくなってしまう学校を卒業するのはよくない。だから市場小でいいという考えが私の所属団体では圧倒的に多かつた。分校制で、第二方面校まで行くということに不満の声もあるかと思うが、バランスよくお互いに理解しあいながら市場小はひとつというかたちでやればよい。

☆：分校案が出てきて、教育の質に影響が出るのではということ懸念したが、評価と課題を見ると、だいたいこのとおりではと思う。問題は、評価と課題の重みづけをどうするかで、それにより結論は変わる。このメンバーの中で、校長を除き、学校教育の現実をわかっている人はあまりいないので、どこがどれだけ重要なのか、はっきりとわからない。従って、判断できないというのが結論だが、分校案に致命的な欠点があるとは学校のプロは言っていないので、どちらを選択してもいいと解釈している。それならば、私の所属団体としては分校案を推したい。

☆：地域を2つに分けることになれば、非常に困る。それが前提にあり、色々なことを考えると、私の所属する団体では分校にしてもらいたいという意見が多かつた。

☆：今と同じことをするのであれば教育環境は絶対2校に分けた方がよい。ただ、今と同じことだけでいいのかということと、2校体制にしても、依然として市場小の本体は過大規模校としての現実は残り、そこまで大きな違いになるのかということもある。そこも考え、地域の特殊性もあり、そういう思いと現実とこれからどうするかとの総合判断が必要で、難しいとは思いますが、どちらでいっても教育委員会のサポートは受けていかないとかなり厳しい。

☆：中学校は、平安小と市場小と今までどおりの関係を築いていかないとけない。そこで様々な新しいことをやっていかないとけないことも出てくると思うので、そこは努力してやっていく。

☆：学校を経営していくことを考えると適正規模という考え方があるので、当然2校に分かれたほうが学校としては経営しやすい。しかし、地域あつての学校であるので、分校となったときには本当に皆さんが支えてくださらないとすごく厳しいと思う。学校は人が重要なので、そこを保証していただけるのであればできると思う。

☆：10年間というのも非常に大きいと思う。分校になって、教員の数が少なくなるというのは、そういった規則にできるだけ則らないで、保証していただけたらと思う。不都合のないようにしてもらいたい。

☆：部会として結論を出す必要があるのであれば、意見のまとめ方についてはきちんとしておいたほうがいい。

☆：決をとって数字で出すということは重要だが、今後の地域のことを考えると無記名投票としていただきたい。

### 3 追加議題

#### (1) 関係地域の通学区域の考え方について

ア 第二方面校（分校）所在地周辺（地図斜線部分）

【現在の学区】 下末吉小・末吉中

【今後の学区】 市場小・市場中

（案1）開校する平成32年度から通学区域を変更。

（案2）平成32年度より以前に通学区域を変更。

イ ナイスクオリティス横濱鶴見（地図格子部分）

【現在の学区】 鶴見小

鶴見中・市場中の特別調整通学区域（※）

【今後の学区】 部会にて検討

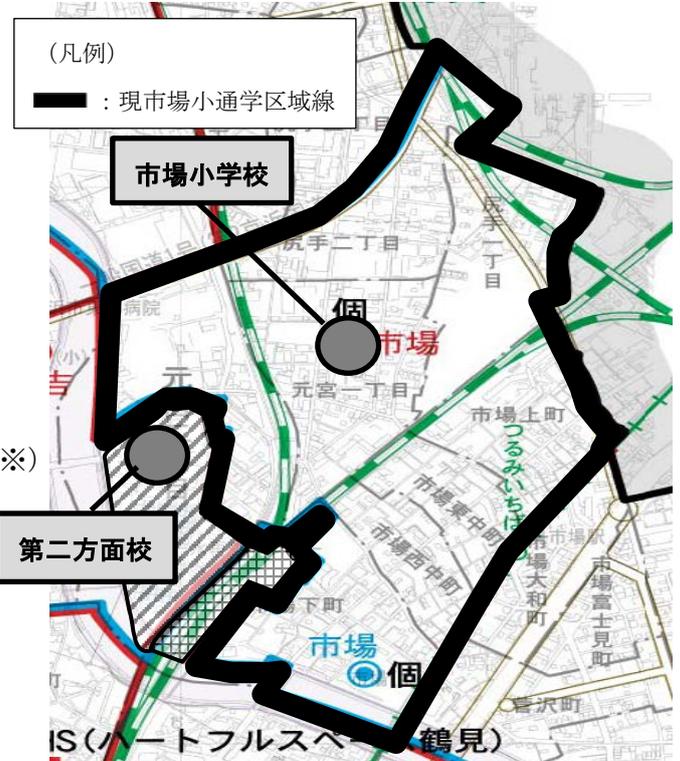
考え方：①変更時期は平成32年4月とする。

②中学校の通学区域は現状のままとする。

（案1）市場小へ通学区域を変更する。

（案2）鶴見小の通学区域のままとする。

（案3）平成32年度の新1年生からを対象に、鶴見小と市場小の特別調整通学区域（※）を設定する。



（※）特別調整通学区域：指定校と受入校のいずれかを希望により自由を選択できる制度

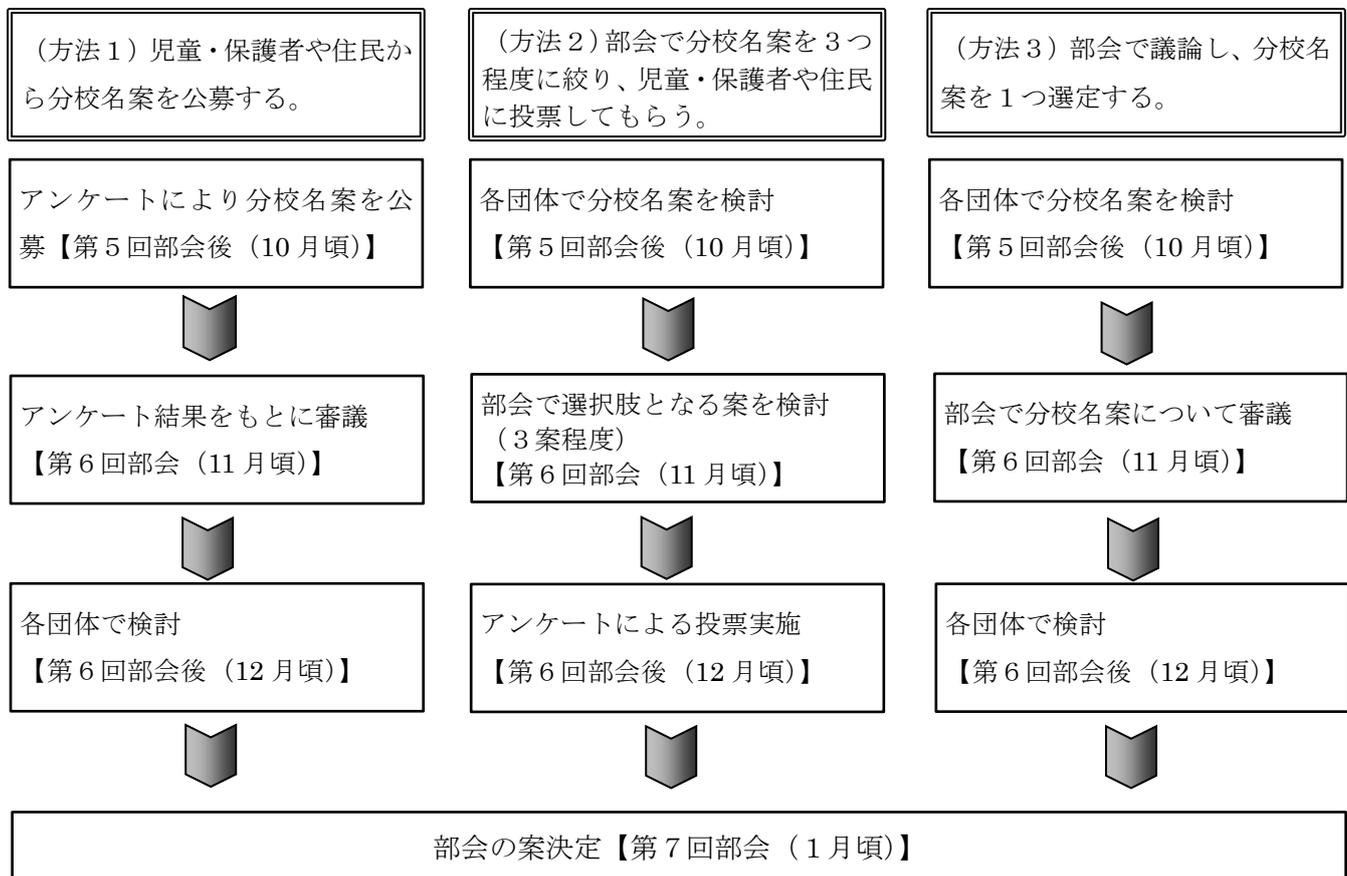
#### (2) 分校名案の考え方について

（案1）「市場小学校分校」とする。

（案2）新しく分校名をつける。

#### 選定方法及び選定の流れ（予定）

※第5回部会（9月）で選定方法について議論し、決定する。



※その後は、学校規模適正化等検討委員会、教育委員会、市会で決定を経る必要があります。

※アンケートはあくまで参考であり、票数が多いものに必ずしも決まるわけではありません。

4 第4回開校準備部会でのその他の質問や発言 (凡例 ☆：各委員からの発言 ⇒：事務局より説明)

(関係地域の通学区域の考え方について)

- ☆：平成32年度に分校になるのであれば、私の所属する団体では、最低の条件は、転校はだめだという意見が強い。
- ⇒：分校の場合は、たとえ他の小学校学区から市場小に通学区域を変更することになったとしても、転校にはならず、新1年生からを対象とする。次回までに検討してきていただければと考えている。

(分校名案の考え方について)

- ☆：「市場小学校分校」というシンプルな形でいいと思う。
- ⇒：横浜市の他の小学校の事例では、「新井小学校桜坂分校」という、分校に名前がついている事例がある。他の自治体でも分校に名前がついているところが多いが、つけずに「市場小学校分校」とすることもできるので、そういうことも含めて検討していただければと思う。

5 開校準備部会に寄せられた主な意見

- (1) 開校準備部会はもう少し開かれた場でできないのか、事務局はどのような根拠で想定通学区域を考えたのか。
- (2) 分校にすると、一学年の人数は減らないので、子ども達の色々な機会は減るし、保護者への負担も増えるので、分校案には反対。
- (3) 現市場小の体育館やプールを建て替えるなどして、10年間限定の校舎の建設は避けるべき。
- (4) 市場小にこだわらず、子ども達が1～6年生までそろった普通の学校生活を送れることを優先するべき。
- (5) そもそも、どうして10年間の学校を整備しなければならなくなったのか。
- (6) 分校にすると教員数は減り、他の小学校とは違う特殊な学校運営や授業カリキュラムになってしまう。学年の児童数が多く横のつながりが薄くなるのに、縦のつながりまで薄くなってしまうので、分校案には反対。通学安全についてしっかりと対処して欲しい。
- (7) 第二方面校候補地の選定、これまでの部会の情報開示、大規模校のスケールメリット等への提案。

◆第5回開校準備部会について

日時：平成28年9月28日(水)19時から  
会場：市場小学校 図工室  
検討内容：関係地域の通学区域について  
分校名案の選定方法について

◆傍聴について

定員：5名(定員を超えた場合は、抽選となります。)  
受付：部会開始の30分前から10分前(18時30分～18時50分)まで、傍聴者の受付を行います。  
傍聴を希望される方は、直接会場にお越しください。

◆市場小学校第二方面校開校準備部会の経過等について

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからもご覧になれます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/kadaikibo/ichibadai2.html>

※横浜市教育委員会ホームページのトップページ上「トピックス」からも、上記URLのページに入ることができます。

◆事務局(お問い合わせ先)

広く皆さまからのご意見やご質問を受け付けております。EメールまたはFAXにてお願いいたします。

横浜市教育委員会事務局学校計画課

Eメール：ky-ichibadai2@city.yokohama.jp

FAX：045-651-1417 TEL：045-671-3252

